

食味と収量のバランス取れた良品種

トマト黄化葉巻病耐病性

リトルジェムプレミアム (AS-356)



【特徴】

「適作型：越冬・促成・半促成・夏秋に最適 抑制にも適する」

- ① トマト黄化葉巻病（イスラエル系統、イスラエルマイルド系統）、葉かび病（Cf-9）、萎ちょう病レース1、レース2、半身萎ちょう病レース1、斑点病、トマトモザイクウイルス病（Tm-2^a型）、ネコブセンチュウに耐病耐虫性。
- ② 早晚性は**早生**。段の進みと果実の色まわりが早い。
- ③ 草勢は中程度で**異常茎の発生が少なく、草勢コントロールに苦労しない**。節間長は中～やや長い。
- ④ 花房はシングルやダブルが多いが、温度条件によっては多花房となる。花数は20～50。
- ⑤ **裂果やへた落ちは少なく可販果率が高いため、計画的に出荷できる**。
- ⑥ 果実は球形。酷暑期はやや縦長になる。果重は13～18gとなりMサイズによく揃う。
- ⑦ 果色は濃赤色で艶がある。
- ⑧ **果肉は充実しており、糖度は安定して高く、適度な酸味が加わり後味を引く豊潤な味。果皮は薄く口に残らず、たいへん美味しい**。

【栽培の要点】

- ① 青枯病、根腐萎ちょう病、褐色根腐病発生圃場では台木を使用する。台木の草勢は「中～やや強」が適し、当社では「あおおに」や「台本命」が適する。
- ② 定植ステージは第1花房のがく割れ期とする。老化苗定植は草勢の低下や果実サイズの縮小につながるため避ける。
- ③ 元肥の10a当たりの窒素量は、越冬・促成・半促成・夏秋が12～20kg、抑制は0～5kgが目安。追肥は越冬・促成・半促成・夏秋が第3花房開花、抑制は第2花房開花時から始めるが、草勢が弱ければ早急に施す。
- ④ 栄養成長と生殖成長のバランスを保ち、適切な草勢と花(果)数を維持することにより、小果を減らす事で収量の向上を図るよう心掛ける。

[品種特性と耐病性]

	草勢	早晩性	花数	果重(g)	TYLCV	CL	F-1	F-2	LS	V-1	N	ToMV
リトルジェム プレミアム	中	早生	20～ 50	13～ 18	○	Cf-9	○	○	○	○	○	Tm-2a
アルル	やや 弱	早生	20～ 40	13～ 18	○	Cf-9			○		○	Tm-2a

[比較試験]

朝日工業 神川農場（埼玉県） 2016-17年

播種 9月9日 定植 10月27日 収穫 2月2日～5月23日

